



今日のトピック FRBはFOMCで近いうちのテーパリング開始を示唆
金融緩和縮小は慎重に行われ株価は堅調推移へ

ポイント1 FRBは金融政策を据え置き

- 米連邦準備制度理事会（FRB）は9月21日、22日に米連邦公開市場委員会（FOMC）を開催し、現在の金融政策を維持することを決定しました。
- 政策金利はフェデラルファンド（FF）レートの誘導目標レンジを0.00～0.25%に据え置き、債券購入プログラムについては、雇用の最大化と物価安定に向けて一段と顕著な進展があるまで現行ペースを維持するとしました。

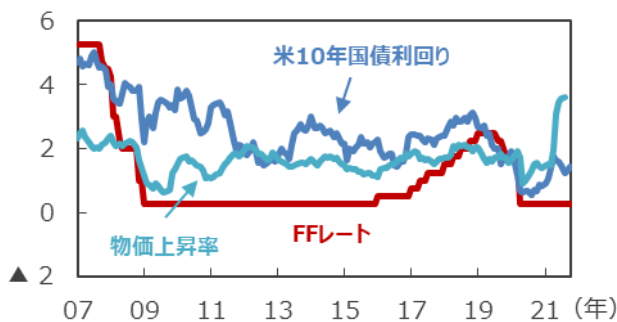
ポイント2 テーパリングが近いうちに開始

- 一方、声明文には「資産買入れのペース減速が近いうちに正当化される可能性がある」との文言が新たに追加されました。
- パウエル議長は記者会見で、来年の中ごろにかけて終了する緩やかなテーパリング（資産買入れ縮小）が適切との見方を示しました。
- ただし、テーパリングは政策金利の引き上げの時期に直接的な示唆を与えるものではないと、利上げには慎重姿勢をとっています。

今後の展開 金融緩和縮小は慎重に実施

- 22日と23日の米国市場では、株式市場、債券利回りはともに上昇しました。テーパリングが近く開始されることは市場の想定通りでしたが、23日は英中銀による利上げ時期前倒しの示唆が米国市場に波及したこともあって、長期金利は大きめに上昇しました。
- パウエル議長は「最大雇用と物価安定目標を達成するため金融政策は極めて緩和的であり続ける」と述べており、金融緩和の縮小は慎重に行われると見られます。一方、その他のFOMC参加者による政策金利見通しでは今後の利上げペースが従来よりも早まっており、FRBによるかじ取りが注目されます。
- 今後の市場については、金融緩和縮小が意識されつつも、企業業績拡大によって株価は上昇を続けると予想します。

(%)【政策金利、長期金利と物価上昇率】



(注1) FFレート、米10年国債利回りは2007年1月～2021年9月。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率は個人消費支出（PCE）コア物価指数の前年同月比。2007年1月～2021年7月。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(ドル)【NYダウと長期金利】 (%)



(注) データは2019年1月1日～2021年9月23日。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2021年9月22日 セカンドライフの運用リターンはなぜ「3%」なのか
2021年9月 9日 主要な資産の利回り比較（2021年8月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。